



中央コーポレーション 2015-2025

10年間の変革と成長



座談会#1

あの時、今、未来へ

— 東日本大震災後の復興工事を乗り越え成長したわが社 —



北日本機械特定 JV 宮古西大橋

平成 23 年（2011）3 月 11 日に起こった東日本大震災により多くの方が犠牲となりました。岩手県では 34 市町村のうち沿岸 12 の市町村が津波の猛威にさらされました。改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

中央コーポレーションは、被災した従業員や家族がいなかったものの、震災を境に多くの試練と困難に立ち向かうことになりました。今、創立から 60 年の歩みを振り返る時、会社の歴史が大きく転換した出来事だったといっても過言ではありません。

被災地で数々の復興工事に携わった足跡はまさに「復興の歩み」そのものだったといえるでしょう。復興工事を手掛けたことで地域に貢献できただけでなく、技術や知識も格段に向上し大きな物件を完遂できる力を培いました。

改めて中央コーポレーションの震災体験や復興工事を後世へ伝えるため、当時の様子や思いを語り合い、ここに記憶と記録として残します。



あの時、私たちに何ができたか
中央コーポレーションそれぞれの 3.11

佐々木社長 本日は、60 周年記念誌制作にあたり、10 年を振り返り記念座談会を開催致します。テーマは「震災復興」と「関東営業所の開設」の 2 つとし、座長は私が務めます。当時を振り返っていただいて、とくに印象に残っていること、エピソードなどを自由にお話いただければと思います。私からまず一言述べますと、震災前と比較して、よくあれだけ大規模な工事を、岩手県当局が地元企業に元請させることを決め、発注し、無事受注し、施工・完成させられたものだな、という思いがあ

ります。それまで当社や鉄構業界、岩手県当局が、積み上げてきた様々な実績をベースに鉄構業界が信頼を得て、震災復興を契機に一気に状況が進みました。まさに歴史の転換点であったと思います。まず専務から何でも結構ですので、お話しください。

菅原専務 東日本大震災の 2 日前に震度 5 強の地震がありました。私は水沢で業界の集まりへ行くため、車で移動中でしたが、電線が非常に揺れ、運転しているのも怖くて車を一旦止めました。おさまって会議へ出席し、帰路につきました。大震災はその 2 日後です。大変強い地震でした。震災



佐々木 史昭 社長
(当時：代表取締役社長)



菅原 博 専務
(当時：常務取締役)



菅原 克彦 常務
(当時：(株)岩手銀行)



高橋 孝典 常務
(当時：工事課課長代理)



青木 彰人 部長
(当時：工務課課長)



川守 永朗 部長
(当時：東北営業所課長代理)



三浦 正人 所長
(当時：品質管理課課長)



高橋 忍 課長
(当時：工事担当課員)



菊池 淳哉 次長
(当時：製造二係主任)

※表記の役職はすべて座談会開催時のものです。

直後、本社で仕事をしていた社員には一度外に避難してもらいました。社長は鉄構業界の行事で留守でした。何度も余震



があり、そのたびに外に避難してもらいましたが、社員の皆さんは家族のことが気になり、電話をかけたりして仕事が手に付かない状況を見て、残れる人だけを会社に残して、一般社員には帰っていただきました。当日、沿岸で仕事をしていた当社社員が何人かいましたが、陸前高田市役所を回っていた営業部員も、姉齒橋の修繕工事を担当していた工事部員も、自らの判断で沿岸部を離れていて、社員が全員無事であったことがわかり、ホッと胸をなでおろしたことを今でも鮮明に覚えております。

社長が夕方に帰社され、発電機を事務所に持ってきて電源をとれるようになり、災害本部を立ち上げて、テレビで状況を確認できるようになりました。最初に目に届いた画像は福島県相馬で津波が7メートルというものでした。その後、今度は宮古で車が流されている様子を見て、これは本当に大変なことが起こったと思いました。平素からお付き合いのある官公庁から要請があったら対応しなければいけないことを想定し、工事部の可能な方に待機をお願いしました。一夜明けて、当社社員が沿岸部へ出向いて現地調査、撮影した写真が届き、大きな水門施設も、アルミ陸閘も流され、めちゃくちゃになっている姿を見て、水の力は本

当に恐ろしいと感じました。数日後、当社社長が懇意にしている大船渡市の豊島建設紀室社長と連絡がとれ、支援物資の供給について話をしました。ちょうど、当社でJESエレメントを製作しており、納入先のJR西日本金沢支所栗林所長から、支援物資供給の問い合わせが来て、当社を経由して豊島建設さんに届けました。JR西日本支社や現場を施工している建設会社からも含めてトラック1台満載の支援物資を送っていただき、豊島建設さんの本社が流された後の臨時事務所へ持って行きました。

佐々木社長 震災直後から岩手県の依頼も受け、応急復旧とか調査とか協力対応も結構やりましたよね？

菅原専務 応急復旧と調査のため、当社から3グループ編成しました。岩手県全体で5～600ヶ所あったようですが、当社で200数10ヶ所はやりましたね。

高橋常務 地震発生3日後ぐらいに岩手県庁から水門、陸閘の点検要請があり、私と当時の設計課長の酒井さんと県庁を訪問しました。メーカーとして県から要請のあった会社は当社（県南担当）と北日本さん（県北担当）の2社のみだったはずです。停電のためエレベ



震災直後の沿岸部



被災した水門の調査



集められた災害支援物資

ターが動かず、河川課のある県庁7階まで何度か階段を往復した記憶があります。当社の工場も稼働していなかったのも、現場点検には製造部のメンバーも含め、菊池淳哉さんなど複数人、複数車で対応しました。県から優先的に給油できる書類ももらいました。点検時に遺体を発見しても特に処置しなくて良いと指示がありましたが、大船渡地区では焦げ臭い匂いが充満し重油で汚れていて、水路や上屋内部を点検する際にはブルーシートで覆われている箇所もあり非常に緊張しました。また、調査中に緊急地震速報が鳴ったのを覚えてい

高橋課長 自分が担当していた陸前高田の旧姉齒橋の補修工事が2週間ほど前に完了していて、現場から引き揚げた直後の震災発生でした。陸前高田市内のほぼ全てが流されて中心市街地は廃墟と化し、よく通ったラーメン屋もどこあるかわからない有様。補修した旧姉齒橋は橋脚から落ち、橋桁はバラバラになっていました。別件で私が施工した陸閘2門も、1門は扉体がなくなり戸当りが引きちぎられており、もう1門も瓦礫に埋もれていました。



佐々木社長 震災当時の会社の様子はどうでしたか？

三浦所長 震災当初は品質管理課所属で、工場で国交省さん発注のゲートの立会検査中でした。これは尋常じゃない揺れだということで、国交省の方が検査をその場で止め



て帰られる事態になり、大変な緊急事態だと思いました。

高橋課長 私は震災当日夜、防犯担当として24時から会社に入りました。夜間、花巻市の職員の方がドラムの電源コードを貸してくれないか、と来ました。その日は三浦さん、工事部の照井齊さんも会社に待機していたと思います。投光器を花巻の体育館に届けた記憶もあります。

佐々木社長 災害本部を立ち上げて、当社は発電機を使って夜間も明るくテレビで情報を取れ、地下水もくみ上げられましたが、世間は電気もガスも水道もみんな止まっていたので、何かと頼りにされたのだと思います。グループ会社の中央石油でガソリンや軽油の在庫を保持できていたことも大きかったです。青木さんはどうでしたか？

青木部長 その日私は鉄構組合青年部の事業で日立鉄工所さんの工場見学に参加していて、その後一関の千葉鉄工所さんに向



かう途中でした。ラジオをつけると地震発生と津波の警報が出ていましたが、津波は高さ3メートルくらいと聴いていたので、ここまで大事になるとは思いませんでした。送電線もかなり揺れていましたし、信号は止まっていましたが、何とか会社に戻りました。

佐々木社長 川守さんはどうでしたか？

川守部長 私はその頃仙台の東北営業所配属で、清水建設東北支店の近くで監理技術者講習を受けていました。仙台市内も激震でした。家族で仙台に住んでいたのも、家に帰ろうとエレベーター式の駐車場から車を出そうと1時間ぐらい粘ったんですが、停電が復旧せず諦めて約10キロの距離

をアパートまで歩きました。歩いている途中仙台駅の方は、火事なのか真っ赤になっていて、強い余震が何度もあり、酔っ払っているような感じでした。2 時間半ぐらいかかって家に着いたのが夜 7 時半ぐらい。奥さんと子供が無事で抱き合った記憶があります。仙台市内もガソリンが全然手に入らず、治安も悪くなり、泥棒が入ったという事案もよく聞きました。

真面目に一生懸命向き合った 手探りの復興工事 信頼関係を築き、大型物件に挑戦

菅原専務 復興工事の最初は丸島アクアシステムさんとの復興 JV で、釜石須賀地区水門・陸閘工事を受注しました。受注してから、実際に動き始めるまで 1 年ぐらいかかったような気がします。通常の公共工事の量も少なく、県自体が被災しているので非常に時間がかかり、なかなか工事着手できず 2 年ぐらい苦労した思いがあります。

佐々木社長 いずれ震災復興工事は出て来るだろうと思っていましたが、いつどういうタイミングで出てくるかわからず、震災後数年は全然出て来ないな、という感じでした。



丸島アクアシステム復興 JV 須賀地区水門

三浦所長 標準断面発注という言い方をしていましたが、予め設計変更ありきで概算数量と一般図のみで入札を行い、受注者を決定した後に詳細設計を進める感じでした。

菅原専務 須賀地区陸閘は、釜石港に設置されるので日本製鉄釜石製鉄所の総務課に大変お世話になりました。ヤード内に事務所をお借りすると、敷地の横断許可をとるとか。

佐々木社長 日本製鉄さんは、釜石製鉄所があるので地元企業としての存在感は別格で、震災復興に合わせて開発した新製品であるハイブリッド防潮堤を、日本製鉄東北支店と連携し、素材は日本製鉄、土木エンジニアリングは横河 NS エンジニアリング、当社が地元ファブリケーターとして製作と据付を担当する連携をとって営業し、大型受注に結びついたことは画期的でした。また須賀地区陸閘の後から、新たに開発された二相ステンレス鋼が徐々に使われ始めました。

高橋課長 宮古港の藤原地区陸閘で、二相ステンレス鋼が採用された当時日本最大の陸閘設備を JV 現場代理人として担当しました。特に藤原 1 号陸閘は純径間 25 m、扉高 8.22 m、走行レール約 49 m という巨大なものでした。

菅原専務 二相ステンレスは、従来のステンレス鋼より高強度で耐食性、耐孔食性が優れていて、従来品より価格は高くなりますが、レアメタル含有量が少なく、原料価格の変動に対するリスクも



丸島アクアシステム復興 JV 藤原地区陸閘

少なく比較的価格が安定しているのが売りでした。

佐々木社長 水門・陸閘の大型工事はほとんど JV 案件だったと思います。三浦さんは、JV の窓口をかなりやってもらいましたが、どんなことが思い出されますか？

三浦所長 平成 26 年に品質管理課から営業になりました。須賀水門が初の復興 JV 案件で、当社が親でした。営業配属になって間もなかったせいもあり最初は子である丸島アクアシステムさんに教をを請いながら進めていきました。不慣れで何も分からない中、入札後の内訳書の提出はとても緊張しました。今まで扱ったことのない工事費が大きいものばかりで間違えればアウトなので。高橋忍課長とは実行予算、JV 予算の作成に携わっていただき本当に助かりました。積算など詳しく理解していない中、現場事務所の手配、釜石製鉄所に土地借用依頼、飯場を造らなければならない、などいろいろな課題がありました。これらすべてを丸島アクアシステムさんと一緒に実施出来たので、本当にいい経験をさせてもらいました。

佐々木社長 JV の受注金額は本当に大きくて、早いうちに甲子川水門と大槌・小鉾川水門の 2 件を

WTO で受注しましたが、2 件だけで当社分が 20 億円ぐらいになりました。

菅原専務 当時、復興工事が始めて 3 年ぐらいで、鶴住居水門を含めて受注ベース 40 億円を超えてました。

佐々木社長 特定 JV では、丸島アクアシステムさんが親で、当社は子だから気楽。復興 JV だと、当社が親で当社の実績にはなりますが JV の予算管理、工程管理、発注者対応などを当社主導で進めなければならないから、復興 JV のほうが大変だったんじゃない？

三浦所長 津波対策用大型水門は WTO で特定 JV でしたが、復興 JV 工事の方が先に出て、丸島アクアシステムさんと複数案件受注出来たので、JV 2 社間で営業を皮切りに、技術、製造、工事等、それぞれ交流が盛んになり始めました。懇親会もたくさんやりました。当社も若い社員が多かったので、社外の方との交流は技術的にも、人間的にもいい経験になったと思います。橋梁については、北日本機械さんと初めて地元同士で特定 JV を構成し、複数件受注して大変盛り上がりましたが、とにかく相手に迷惑をかけないよう必死でした。特に、当社が親で北日本機械さんとの特定 JV で受注した宮古西大橋は、総重量 1800 t で契約金額 20 億円を超える超大型案件。岩手県内企業同士の JV で無事に完成させ、令和元年度の優良工事表彰も受賞しました。岩手県当局に岩手県内企業の底力を示した画期的な物件でした。



北日本機械特定 JV 今泉大橋

高橋課長 私が携わった最初の復興 JV 工事は釜石須賀地区陸開でした。当初、他の若手現場代理人が担当しておりましたが、彼も JV 工事の進め方をよくわかっておらず私が手伝うことになりました。現場予算を作る時、三浦さんから予算案を頂戴して、現場予算に落とし込んでいくのに非常に苦労しました。何パターンか案を作って、菅原専務のところに行っては「これじゃダメだ」と何回も添削いただきました。専務や監査役の厳しいチェックが入り、何度も修正した記憶があります。現場が始まり、関西から丸島アクアシステムさんが現場に入られる際、正直私も他県の人と仕事するのは初めてで、どう接したらいいかわからなかったです。最初の打ち合わせに、先方は工事部長、副部長初めそうそうたるメンバーで来られました。現場を上手く進めるためには丸島アクアシステムさんと良い関係を築かなきゃダメだと思い、できるだけ現場の雰囲気をよくしようといういろいろ考えました。うちの会社のいいところ、うちの会社らしいところを全面に押し出して一緒に仕事を進めていこうと必死に走り回った記憶があります。

佐々木社長 うちの会社のいいところって、どういうところですか？



丸島アクアシステム特定 JV 甲子川水門

高橋課長 当然、地元企業ということ。丸島アクアシステムさんは奈良県で関西人が多いので、私達は岩手県人で、岩手県人らしく愚直で真面目な人格があります。そういうところから信頼もらえるように、現場を進めていこうと考えました。

佐々木社長 丸島アクアシステムさんと一緒に仕事をしていて、こんなことを聞いたら恥ずかしいな、とかそういうことはありました？

高橋課長 ありましたね。最初は聞きたいこともあまり聞いたらよくないのかな、という感じもしましたが、関係性を築いていくうちに、そんなことないな、と徐々に聞けるようになりました。

佐々木社長 逆に相手から見るとどの程度のことまでは分かっている、ということが分かった方が、進めやすいでしょう。ここまでは進めて大丈夫、だからここから教えればいい、と理解してもらえるのは大きい。話してもわからないというのが一番困る。工事の現場においては高橋忍課長が丸島さんとの窓口役だったと思うし、製造においては淳哉さんがそうだったでしょう。

菅原専務 小鎚川水門はうちでシュルゲートを



丸島アクアシステム特定 JV 小鎚川水門 製作時

造った。造るにあたって淳哉君にはご苦労かけたね。小槌を「うちで造れます」とあなたが言ったのは立派だった。

菊池次長 言いましたっけ？全然覚えてない…。

菅原専務 私としては「大丈夫かな？」と思ったけど「いや、造れます」と。それがあったからこそ、その後の関口川シュルゲート、昨年関東で完成させた古利根堰ゲートにも結びついている。

佐々木社長 どこで分割して、どこを機械加工して、現場溶接でどのように品質と形状を管理するか、精度を要する極厚のシュルゲート製作は大変貴重な経験だったと思います。やり遂げられたのは、丸島さんから当社の製造部が信頼を勝ち得たこと、もともとうちはものづくりにチャレンジしてきた DNA があるからと思います。

菊池次長 製缶技術を基本にするとして、長さ 20m の製缶だと通常 7 ～ 8mm の許容はある。大型のシュルゲートだとダム堰の基準になり、左右 1mm 以内にどうやって収めるか。以前のうちの工場では歪取りで頑張るという概念しかなかったのが、20m で 1mm 以内となれば機械加工で仕上げなければ無理。全体は一気に運べませんし、全体を加工できる機械加工機もないし、最後は現場で組み上げて溶接しなければならない。丸島アクアシステムさんに教えてもらいながら、製缶後全体を組んだ状態で各部材に芯を入れ、機械加工代を大きめにとって削り線を入れ、解体後、単品で機械加工を外注し、現場では溶接変形を管理して、最後に許容値内に納めるということで、大変勉強になりました。

菅原専務 端部ブロックは短いわけだね。そこ

の精度を確保して最終的に数字が合うように加工するんだね。

菊池次長 他の中央部は通常の 5mm とかに入っていればいいので、普通に管理していれば許容値に入ってくる感じでした。丸島アクアシステムさんの工場で当社の及川雅玄さんと一緒に 2・3 日入って、大型機械製品の精度管理のノウハウを教えてもらいました。

佐々木社長 自社で大型の機械加工機を保有しなくても、外注加工出来る会社があれば十分製造可能ということですね。社内で大型機械加工機を保有しても稼働率を確保出来ないのでは？

菊池次長 はい。そのつながりから、大型機械加工を当初はアルバックさんをお願いし、今はユーテックさんをお願いして、いずれともよいお付き合いをさせていただいています。

佐々木社長 高橋常務の震災に対する思いは？

高橋常務 私は会社に迷惑かけてしまったという意味で、東日本大震災の復興がまだ道半ばの時に起きた平成 28 年（2016）の台風 10 号の被害が思い出されます。平成 27 年（2015）に受注し、現場代理人として担当した国交省の久慈管内橋梁補強補修工事の施工途中に台風被害を受けました。安家川沿いに設置した現場事務所がまるごと河川に流出して今でも強烈に記憶に残っています。台風が来ることがわかっていながら、ここまで被害が



台風 10 号被災時

出るとは想像できませんでした。

※平成 28 年台風 10 号被害…岩手県全体で死者 20 名、
行方不明者 3 名。

佐々木社長 当社の現場事務所はどういう状況
だったの？

高橋常務 台風
がきているから
ということで、
現場は止まって
いたけど書類作
成はやる、とい
うことで何人か
が事務所にいま



したので、見回りをして午後 6 時ぐらいまで書類
作成をやって帰りました。夜になって、別の久慈
の現場を担当していた工事部員から「アパートか
ら脱出できないので助けてください」と連絡があっ
て、自分のアパートを出てみたら周りが水に浸かっ
ていて、周囲の道路が冠水していたので、私自身
も身動きが取れませんでした。久慈市山形町の新
芋谷橋を担当していた工事部員からも「出られな
くなったので助けてください」と連絡がきまして、
通行可能な道路を遠回りして助けることができました。
早朝水がひいたので現場を確認したところ、
現場事務所ごと見当たらず、パソコンや資材など
一切合切流されていました。何週間後かに現場に
行きましたが、ユニックは近くで埋まっているの
を見つけて搬出しました。



丸島アクアシステム特定JV 鵜住居水門

佐々木社長 現場事務所で残業でもしていたら、
危なく一緒に流されたということ？

高橋常務 だったかもしれません。

菅原専務 車なんかも流されたけども、結局保険
下りなかったよね。

高橋常務 災害保険は下りていないですけど、地
元の野田村から罹災証明書もらったので、コピー
機とかある程度の補償は受けることができました。
大変な経験でしたけれど、おかげさまで成長させ
てもらったと思います。今の自分があるのもこの
震災復興体験を乗り越えたおかげです。

佐々木社長 この復興工事期間中、いろいろな会
社を見る機会があったと思います。他社さんへ行っ
て見てみると、うちの会社の良さがわかるような
こともあったのではないですか？

菊池次長 資金力がある丸島アクアシステムさん
なんかは、必要な機械加工機を全部自社で保有す
るという考え方。うちは自社工場で造った後、外
注さんに協力してもらって、最終的にもちろん自
社で責任を持つ。作業台のあり方なども勉強にな
りました。うちは 1 回 1 回物件に合わせて台を
持ってきてサイズに合わせて準備しますが、丸
島さんは H 鋼を何十 m も置いて定盤にして作業台
として使う。定まったピッチで全面埋まっている
平らになっているという印象です。天井クレーン
の下にサブクレーンがあってクレーン待ちが少な

い。今はうちも同じようになっています。

佐々木社長 やっぱり工場がきれいだね。丸島
アクアシステムさんとか、旭イノベックスさんと
かは、かなりレベルの高い会社だけど、当社の手
が届かないほどではない。ちょうどよい目標になっ
て、よいお付き合いをさせていただき、大変勉強
になりましたね。

菅原専務 復興の際、製造部長は伊藤誠さんで、
青木さんも携わった。工場も外注手配含めて一つ
一つが大変な仕事だったので、まとめ上げるのに
大変苦労しただろう。

青木部長 大型案件で初めて受注した須賀陸開は
ステンレス鋼材を扱うので、社内製作では工場製
作の際にステンレスエリアを決めて、錆対策や酸
洗水の処理について、製作前段階の検討にプレッ
シャーを感じて進めた記憶があります。大型工事
の受注により、県外業者に協力してもらう機会も
多く、多くの工場を見せていただいたので、大変
良い勉強になりました。また丸島アクアシステム
さんとの JV で受注した大型物件のおかげで、自
社工場で加工していなくても、会社として相応の
利益が上がり、製造出来高の確保に大きく貢献し
ました。

佐々木社長 WTO のような超大型案件は、難易
度が高く大手企業が受注しても利益を確保出来る
水準の積算になっていて、利益率が非常に高いこ
とを実感しましたね。大型物件を競って受注して



横河ブリッジ特定JV 川口橋

いかないと大きな利益は取れないことが身に染み
ました。川守部長は営業的に思い出される苦労に
はどんなものがありましたか？

川守部長 大船
渡の川口橋で
すね。700 t を
超える 3 径間連
続箱桁の送り出
し架設。横河ブ
リッジさんと特
定 JV で当社が



親で受注しましたが、総合評価の事前予測ではラ
イバル JV に負けていたので、何としてでも受注
しようと低入札にいかざるを得なくて…。

佐々木社長 当時は、低入札制度が今と違って
いて、担当技術者を増やしたり、低入札資料をかな
り多く用意させられたり、ペナルティ的なものが
課されましたけれど、後に影響するほどのことは
なかったですね。

川守部長 完成工事評点はむしろ高かったです。

佐々木社長 今振り返ると、営業戦略的には成功
と言えるのでしょうか。

菅原専務 入札の読み次第でしたが、入札参加企
業が何社になるかわからず、参加企業の入札金額
から低入札基準価格が決まる制度だったので、読
みはさほど当てにならず、ある程度金額を下げな



三陸鉄道 小鮎川橋梁

きゃ勝てないという判断でした。

川守部長 今は岩手県の低入札制度が改正され、低入札しても評価点数に反映されなくなったので、低入札が起こりにくくなりました。

佐々木社長 当社は震災前から公共工事以外の柱として、JR 東日本向けの鉄道橋や、JES エレメントなど、重要構造物を結構なボリュームで担当させてもらっていましたので、震災復興で忙しくなったときでも JR の仕事を切らすことはしませんでしたね。

青木部長 三陸鉄道や山田線が流され、JR 東日本が担当して復旧・復興の鉄道桁の架け替えを進めましたが、当社でも相当製作させて頂きました。一番早かったのが、JR 八戸線の橋桁がそのまま流された大浜川橋梁で、ユニオン建設さんも、JR 東日本の盛岡土木技術センターさんと構造技術センターさんも一生懸命になって検討し、流された桁を再利用することになりました。

佐々木社長 当時の JR 東日本の構造技術センター所長、鉄道桁の大御所石橋忠良氏が当社の工場に来られ「この規模と能力の工場がこの位置で稼働

しているのであれば、流された桁をプラストして、補修して、必要な部材を再製作して、再利用しましょう」と判断して、後に土木学会や橋梁専門誌「橋梁と基礎」で報告されました。当社の工場がなければ、すべて造り直しでしたね。

菅原専務 また随分きれいに直しましたよ。プラストして塗り直したら新品みたいになった。あれはすごかった。プラスト後は塩分測定もしたんだろう。

佐々木社長 今だったら F 砂 S 工法を活用して、湿粒プラストで塩分除去して再利用、ということになるのでしょうけど、当時はまだありませんでしたね。

岩手県の復興工事を県内業者が元請け 震災復興工事で実績をつくり 次のステップへ

佐々木社長 私の立場で震災復興を振り返ると、岩手県当局が当初は手探りだったものの、徐々に岩手県の鉄構業界を信頼してくれるようになってきたということだと思います。以前は、大手橋梁メーカーの団体である日本橋梁建設協会の意向を尊重する感じだったと思いますが、東日本大震災直後の応急復旧に地元メーカーの協力がなければ何も出来ないことを実感し、完成後のメンテナンスも見据えて地元企業の実力を測っていたのだと思います。建設業の中では、鉄構組合は建設専門工事団体の一つにしか過ぎず、岩手県の入札制度

も、基本は県内に何 100 社もある岩手県建設業協会を念頭に置いたもので、状況の異なる鉄構業界に準用すると多少の不具合を生ずるのは織り込み済みという感じです。岩手県鉄構組合として岩手県に要望してもよほどの不具合が生じていないのであれば、逆に他の建設業界に影響を及ぼしかねないという意識もあり、慎重にならざるを得ないこともよくわかりました。しかし震災復興需要も前に、岩手県の鉄構業界がノーガードで大手企業と入札競争すると基本は敵わないので、地元企業の受注チャンスが広がるように何度も要望を重ね、そうしているうちに相互理解も深まり、これはいよいよ本当に動かないとまずいな、という局面になって、ようやく動いてもらえたという感覚です。地域精通度の本社加点において当該地域に地元企業がない場合岩手県全体を地元と見なして 0.5 点加点するとか、復興 JV 制度を岩手県で採用してもらえたとか、ちょっとしたことが、最終的に県内企業の受注の実現につながり、岩手県の鉄構業界を大きく成長させることにつながったことを振り返ると、鉄構組合の活動は非常に重要であったと感じます。

震災当時、岩手県鉄構組合には、社会インフラについて活動する特別の組織はありませんでした。理事長は小山田工業所社長小山田周右氏、副理事長はカガヤ社長加賀谷輝男氏、佐々木鉄工所の故佐々木英則氏、そして私の 3 人で、私が一番若かった事もあり、岩手県当局への要望書のシナリオは私が書いて、理事会で承認していただき、岩手県要望の機会をつくり、事前説明へ行っていました。



岩手県当局も水門・陸閘の応急復旧の際、地元企業の応援がなければどうしようもないことを実感され、水門・陸閘設備完成後の点検・整備も地元企業がなければなしえないことを理解されたようで、岩手県鉄構組合がパートナーとして認知されるようになり、徐々に話しが噛み合うようになっていきました。震災後 7 年経過した平成 30 年に私が理事長に就任し、社会インフラ部会を立ち上げ、その後も毎年継続して当局とコミュニケーションをとり、信頼関係を熟成させて今に至っています。岩手の社会インフラを、岩手の地元企業により設計、製作、据付、メンテナンスまで担当するようになったことであり、震災後の岩手にとって最大の社会変化の一つと言えると思います。地元への経済効果も大きく、地元継続雇用を生み出し、技術者も育ち、これこそ岩手県が本当の復興として目指してきたものであろうと思っています。



J R 八戸線 大浜川橋梁 被災時



J R 八戸線 大浜川橋梁 架設時



J R 八戸線 大浜川橋梁 令和 7 年現在の写真